# 稲作情報

No.８「土づくり＆刈取積算温度」

ＪＡえちご中越　さんとう営農センター
R8.8.27 発行　　TEL：0258-41-2887

営農 LINE

## 秋の土づくりで異常気象に負けない「丈夫な稲づくり」を実践!!

### １．春先の硫化水素（ワキ）対策 ➡ 初期生育・除草剤効果 UP！

近年は収穫後の再生稲（ひこばえ）や稲わらの腐熟が十分に進まないまま春を迎え、生育初期に「ワキ」が発生し、生育が抑制される傾向にあります。良質茎を早期確保し、分げつを促進させるためにも、以下の方法を実践しましょう。

#### ① 稲わらの秋すき込みの実施

稲わらを深くすき込みすぎると、分解が遅れてしまうので注意するのジャ!!




| | |
|---|---|
| A 保肥力の向上 | 土を柔らかくして、土の養分を抱える力を向上 |
| B 不足栄養分の補てん | 地力の維持増進、土壌の改善と土質の向上 |
| C 初期生育の確保 | 未分解の稲わらによるワキの発生を低減 |

➡ 稲わらの分解を促進するためには、地温（15℃以上）が必要です。計画的な作業で地温の高い**10 月中旬まで**に、深さ **5 ～10cm** 程度の**“浅うち”**で出来るだけ丁寧にすき込みましょう!!

#### ② 秋すき込みと合わせた有機質資材の投入

| 資材名 | 規格 | 使用量目安 | 保証成分（%） | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | N | P | K |
| 鶏ちゃんパワー ペレット | 15 kg | 30～60 kg／10a | **4.2** | **2.9** | **2.4** |

➡ケイフンに含まれる窒素の供給により、稲わらなどの有機物の分解を助ける微生物の動きを活発にする効果が期待できます。

#### ③ 稲わら分解促進剤の活用




★1　ＪＡでは、酵素の力で稲わらをしっかり分解して、「ワキ」の発生を軽減できる稲わら分解促進剤として**“アグリ革命”**の施用を推奨しています。

★2 省力散布できる「細粒タイプ」（2kg/10a）、お持ちの噴霧器・スプレーヤー・ドローンなどにあわせて自由に希釈して散布できる「液剤タイプ」（100ｍℓ /10a：希釈液 10ℓ～500ℓ）をほ場条件にあわせて活用してください。

| 出来秋の気象・ほ場条件にあった「すき込み処理法」でワキの発生量を削減!! | | |
|---|---|---|
| A 好天が続いて、ほ場が良く乾いている | ➡ | 早めの「秋すき込み」でＯＫ!! |
| B ほ場は乾いていないが、なんとか秋耕できる | ➡ | 「分解促進剤＋秋すき込み」を推奨!! |
| C ほ場が軟弱・湿田で秋耕できない | ➡ | 収穫後の「分解促進剤の活用」を推奨!! |

### ２．土壌分析結果に基づき、土づくり資材を使用しましょう！

高温気象の常態化により、水稲の成長と玄米の登熟に必要なさまざまな栄養成分の吸収が旺盛になっており、年々地力の低下が見られております。当地区では**“ケイ酸”**を中心に**不足**しており、生育や玄米品質への影響から不足する成分を補充し、丈夫な稲づくりに励みましょう！

#### ① 令和７年度　各地区の土壌分析結果表（不足順）

■…不足、▒…目標値未満だが適正範囲内、▨…過剰・施用を控える

| 地区平均 | Ｃａ 石灰 | Ｓｉ ケイ酸 | Ｋ カリ | Ｍｇ 苦土 | Ｆｅ 鉄 | Ｎ 窒素 | Ｐ リン酸 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 寺泊 | 174 | 9.7 | 15.9 | 56 | 1.81 | 19.4 | 44.8 |
| 和島 | 163 | 8.8 | 16.4 | 57 | 1.73 | 17.5 | 32.0 |
| 出雲崎 | 192 | 10.7 | 17.3 | 69 | 1.46 | 15.1 | 29.3 |
| 三島 | 220 | 18.4 | 21.4 | 66 | 1.63 | 17.8 | 49.4 |
| 与板 | 215 | 15.7 | 30.6 | 62 | 1.89 | 20.9 | 69.3 |
| こしじ | 157 | 13.8 | 18.5 | 33 | 1.55 | 15.4 | 77.9 |
| 平均 | 178 | 12.3 | 18.8 | 53 | 1.67 | 17.4 | 52.7 |
| 目標値 | 250 | 15.0 | 19.0 | 60 | 1.50 | 15.0 | 22.0 |

※１　本結果はあくまで平均値となりますのでご了承ください。

※２　令和 8 年度も例年同様、稲収穫後に営農センター職員が管内ほ場の土壌を採取させていただき、土壌分析を実施いたします。分析結果に基づき水稲土壌マップの作成や技術情報として提供いたしますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

#### ② 各成分の不足による影響について

| | |
|---|---|
| Ca：石灰 | くず米や乳白粒が多くなり、品質に影響が出ることがあります。 |
| Ｓｉ：ケイ酸 | **収量・品質が低下**(高温障害による白未熟粒、胴割粒増加)するほか、茎葉が軟弱になり、**病害虫への抵抗力の低下**や**倒伏リスク**が高まります。 |
| Ｋ　：カリ | 根の活力が低下し、**秋落ち（根腐れ）**や**倒伏リスク**が高まります。また、登熟期のデンプン合成に影響するため**収量低下や未熟粒(背白、基白)の発生が多く**なります。 |
| Mg：苦土 | **葉の黄化**や未熟粒の発生、**食味低下の原因**となります。 |
| Ｆｅ：鉄 | 老朽化水田(**秋落ち田**)の傾向があるため、田植え後に発生する**硫化水素(ワキ)の影響**により根がダメージを受ける可能性があります。 |

#### ③ ケイ酸質の補給により高温・倒伏対策

ケイ酸にはいもち病等の病害虫対策のほか、受光態勢や根の活力を向上させ、倒伏防止や高温対策としても有効です。当地区の有効態ケイ酸の値は新潟県の目標値 **15.0** mg に対して平均 **12.3** mg 前後と**低い**傾向にあります。以下の対策により改善を図りましょう。

**対策１　もみ殻の還元** … **窒素飢餓を防ぐため 10a あたり 250kg を上限に施用しましょう！**

水稲の収穫・刈取により、水田から 10ａあたり 120kg 程度のもみ殻が水田外に持ち出されます。持ち出されたもみ殻には、イネの組織を形成する重要な成分のケイ酸成分が 20％程度含まれていて、土壌を膨軟化して土づくりの効果も期待できます。

**対策２　ケイ酸質資材の投入** … **JA 独自支援「地域農業応援積立金事業」を活用しましょう！**

上記のようにもみ殻をすべて還元した場合でも、土壌中のケイ酸質は年々ほ場外に溶脱し、徐々に減少していきます。ケイ酸質資材の補充により不足分を補いましょう。

**８月上旬に各戸に配布された 令和９年用肥料・農薬予約申込書 内の「稲作用（特別栽培米用）」ページをご確認いただき、ご自身のほ場に適した“土づくり資材”を是非ご検討ください！**

# 【こしじ地区　収穫適期　積算温度表】

令和8年度　収穫適期のめやす

（8月25日までは本年値、それ以降は平年値）　気温データ：長岡アメダスデータの平均気温

| 品種名 | 出穂後日数 | 出穂期（盛期） | ①高温年判断 | | ②白未熟懸念 | | ③胴割れ懸念 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 平均気温 | 判定 | 平均気温 | 判定 | 平均気温 | 判定 |
| ゆきみらい | 44 | 7月12日 | 27.7 | 甚大 | 27.7 | 甚大 | 27.7 | 高高 |
| 五百万石 | 41 | 7月15日 | 27.9 | 甚大 | 27.8 | 甚大 | 27.8 | 高高 |
| わたぼうし | 39 | 7月17日 | 27.6 | 甚大 | 27.8 | 甚大 | 27.7 | 高高 |
| ゆきん子舞 | 38 | 7月18日 | 27.2 | 甚大 | 28.0 | 甚大 | 27.9 | 高高 |
| こしいぶき | 38 | 7月18日 | 27.2 | 甚大 | 28.0 | 甚大 | 27.9 | 高高 |
| こがねもち | 40 | 7月16日 | 27.7 | 甚大 | 27.7 | 甚大 | 27.7 | 高高 |
| コシヒカリ | 28 | 7月28日 | 27.6 | 甚大 | 27.3 | 高高 | 27.3 | 高 |
| 新之助 | 19 | 8月6日 | 26.9 | 高高 | 27.5 | 甚大 | 27.6 | 高高 |

＊出穂期後10日間の平均最高気温が33℃以上で胴割米の発生リスク↗↗↗　高

925～950
950～975
975～1000
1000～1025
1025～1050
1050～1100
1100～1150

**【積算温度のめやす】**

ゆきみらい
五百万石
わたぼうし
こしいぶき
ゆきの精　　975℃（高温年　925℃）

こがねもち
コシヒカリ　　1000℃（高温年　950℃）

越淡麗　　1000～1050℃（高温年　950~1000℃）

新之助　　1050～1100℃（高温年　1000~1050℃）

にじのきらめき　　1100～1200℃（高温年　1050~1150℃）

※ ✸ は、出穂盛期を表す（ ⟷ は、出穂期の幅）

# 【中部地区　収穫適期　積算温度表】

令和8年度　収穫適期のめやす

（8月25日までは本年値、それ以降は平年値）　　気温データ：長岡アメダスデータの平均気温

| R8 出穂期 ＼ 収獲 / 出穂 / 気温 | 8/6 29.6 | 8/7 30.4 | 8/8 27.8 | 8/9 26.7 | 8/10 26.5 | 8/11 23.1 | 8/12 27.2 | 8/13 26.4 | 8/14 27.5 | 8/15 27.2 | 8/16 28.2 | 8/17 28.0 | 8/18 28.8 | 8/19 28.8 | 8/20 28.5 | 8/21 26.1 | 8/22 26.7 | 8/23 27.4 | 8/24 29.2 | 8/25 29.5 | 8/26 25.4 | 8/27 25.3 | 8/28 25.2 | 8/29 25.1 | 8/30 25.0 | 8/31 24.8 | 9/1 24.7 | 9/2 24.6 | 9/3 24.5 | 9/4 24.3 | 9/5 24.2 | 9/6 24.0 | 9/7 23.8 | 9/8 23.7 | 9/9 23.5 | 9/10 23.3 | 9/11 23.1 | 9/12 22.9 | 9/13 22.7 | 9/14 22.4 | 9/15 22.2 | 9/16 22.0 | 9/17 21.8 | 9/18 21.5 | 9/19 21.3 | 9/20 21.1 | 9/21 20.8 | 9/22 20.6 | 9/23 20.4 | 9/24 20.2 | 9/25 19.9 | 9/26 19.7 | 9/27 19.6 | 9/28 19.4 | 9/29 19.2 | 9/30 19.0 | 10/1 18.9 | 10/2 18.7 | 10/3 18.5 | 10/4 18.3 | 10/5 18.2 | 10/6 18.0 | 10/7 17.8 | 10/8 17.6 | 10/9 17.4 | 10/10 17.2 |
|---|---|---

# 【北部地区　収穫適期　積算温度表】

令和8年度　収穫適期のめやす

（8月25日までは本年値、それ以降は平年値）　　気温データ：寺泊アメダスデータの平均気温

| R8 出穂期 ＼ 収獲 / 出穂 / 気温 | 8/6 28.3 | 8/7 28.8 | 8/8 27.9 | 8/9 26.2 | 8/10 26.1 | 8/11 24.4 | 8/12 27.0 | 8/13 27.4 | 8/14 27.2 | 8/15 26.7 | 8/16 27.1 | 8/17 26.9 | 8/18 27.7 | 8/19 28.1 | 8/20 27.9 | 8/21 25.4 | 8/22 26.4 | 8/23 26.2 | 8/24 28.5 | 8/25 29.3 | 8/26 25.0 | 8/27 24.9 | 8/28 24.8 | 8/29 24.7 | 8/30 24.6 | 8/31 24.6 | 9/1 24.5 | 9/2 24.4 | 9/3 24.3 | 9/4 24.2 | 9/5 24.1 | 9/6 23.9 | 9/7 23.8 | 9/8 23.6 | 9/9 23.5 | 9/10 23.3 | 9/11 23.1 | 9/12 22.9 | 9/13 22.7 | 9/14 22.4 | 9/15 22.2 | 9/16 22.0 | 9/17 21.7 | 9/18 21.5 | 9/19 21.2 | 9/20 21.0 | 9/21 20.7 | 9/22 20.4 | 9/23 20.2 | 9/24 20.0 | 9/25 19.8 | 9/26 19.6 | 9/27 19.4 | 9/28 19.2 | 9/29 19.1 | 9/30 18.9 | 10/1 18.8 | 10/2 18.7 | 10/3 18.5 | 10/4 18.4 | 10/5 18.3 | 10/6 18.1 | 10/7 17.9 | 10/8 17.7 | 10/9 17.5 | 10/10 17.3 |
|---|---|---